

## 副会長からのメッセージ

## 相互研鑽の場



玉川大学 教授  
大藤 正

品質保証を目的とした品質管理活動には、毎年11月に行われている品質月間を始め、QCサークル、QC検定や品質管理を推進する団体である日本科学技術連盟や日本規格協会が提供する様々な講習会や催しがある。毎年10月に実施されるQ-S大会、11月に実施されるクオリティフォーラム、6月と12月に実施される箱根のQCシンポジウム、デミング賞などいろいろな形式での行事が開催されている。

それは、品質管理が企業活動を推進する上でなくてはならない活動だからである。最近、モノづくりからコトづくりへなどと言われているが、つくられるコトも、その品質を考える必要がある。

品質管理学会というコミュニティは、品質管理・品質経営に関する相互研鑽の場である。Quality Controlが、品質管理と邦訳され、Quality Managementへと進化したことによって、管理の対象の幅が広がり、製造品質の管理から、設計品質の管理、さらに企画品質や要求品質まで管理の対象となった。

学会というコミュニティの場としては、本部、関西支部、中部支部に分かれて、研究発表会、事業所見学会、シンポジウム、講演会などの行事が事業委員会によって企画され、運営されている。さらに、本部では、各種部会活動や研究会活動が活発に推進されているが、会員からの自主的な申請によって始められる。

これらの場への参画も自発的・自主的なのだが、

参画意識の高い人の方が自組織への貢献も顕著に現れるようである。そして、学会への参画意識の高い人達は、自組織の品質管理活動の推進のみならず、同業他社や異業種の人達とも積極的に交流を深めている。このことによって、日本製品の品質の良さをグローバルに認知される結果となったと考えられる。

しかしながら、昨今問題は複雑でダイナミックに変化していると言われており、従来の考え方には解決できない問題を多くの企業で抱えていると思われる。これらの解は、問題を抱えている当事者が考えるしかないが、JSQCの場への参画によって多くの解決のヒントが得られるはずである。

現在、既に活動している部会や研究会もあるが、品質問題に限らず、抱えている問題をコミュニティに持ち込んで、新たな部会や研究会を発足しての活動も大いに歓迎したい。

最近のお勧めの場は、クオリティトークという場である。アフターファイブのコミュニティではあるが、軽い食事と口のすべりが良くなる飲み物を取りながら、プレゼンターを囲んで言いたいこと、思っていることを本音で話し合う場である。

学会というと学者の集まりと思われがちだが、JSQCは学会といっても産業界の方々の会員の方が多きコミュニティである。それは、QCは机上で行われる活動ではなく、職場で行われる活動だからである。是非、QCサークルの仲間やQC検定を受けた仲間を誘いあわせて、コミュニティに参画して頂ければ幸いである。